

受験番号	
------	--

平成31年度 一般入学試験A日程 小論文課題

〔設問〕

次の文章を読んで、下線部について具体例をあげてあなたの考えを600字以内で述べなさい。

一九世紀後半になって、R・L・スティーヴンソンは、『ジキル博士とハイド氏』（一八八六年）という科学者の二重人格性を告発した小説を書いた。昼間は親切で丁寧に患者を診る医師（科学者）としてのジキル博士、夜になると恐ろしい殺人鬼に変身するハイド氏。むろん、多かれ少なかれ人間には善を愛する側面と悪に惹かれる側面があるのは事実である。通常は、後者を抑えて前者を全うしたいと思っている。ところが、それが同じように出せばいかなることになるか、それを極端に描いたのがこの小説である。そして科学者を主人公に据えることによって人々の共感を得たのではないだろうか。科学者は表向きは善良な顔をしているが、裏では何をしでかすかわからない、その知恵が悪のために使われたら恐ろしいことになってしまう、というわけである。

私はさらに、これは科学の持つ二面性、つまり科学の成果は善にも悪にも使えるということ を明らかにしようとした作品であると思っている。科学は社会に光を投げかけて善を成すとともに、そこには必然的に影が伴い悪にも通じる。科学が急進展し、科学者の存在が広く認知されるようになった一九世紀後半において、早くも科学への疑問が投げかけられたと言えよう。

【池内 了「科学と人間の不協和音」より抜粋】